

# 平成25年度 学校・地域パートナーシップ事業 担当者説明会

## 「地域と共にある学校づくり」の推進 ～今、はじまる学校コミュニティ(=奈良モデル)～

- 1 日時及び会場 平成25年4月26日(金) 9:50～12:00 県立教育研究所
- 2 参加者 市町村教育委員会事務担当者、事業実施校担当教職員  
計 217名参加
- 3 内容 9:50～10:10 開会 プレゼンテーション  
「学校コミュニティ(=奈良モデル)」  
10:10～10:40 学校・地域パートナーシップ事業に関する行政説明  
10:40～11:10 平成24年度モデル校の取組紹介  
11:10～12:00 情報交換会



学校コミュニティ始動に向かったの全体会

### 【概要】

#### <取組事例の紹介>

- (1) 五條市 五條市立五條西中学校 校長 喜多孝行  
五條市教育委員会 学校・地域連携アドバイザー 仲嶋時博  
○市の教育振興計画に基づき、教職員で課題を共有  
○「地域活動」「安心・安全」「未来」「きずな」の4つの学校コミュニティ協議会を設け、地域と共に熟議
- (2) 明日香村 明日香村教育委員会 学校指導主事 大橋 勉  
明日香村立明日香小学校 教務主任 川口雅哉  
○村教育委員会の方針である幼小中一貫教育に基づき、発達段階に応じた取組を計画  
○幼小中の全教職員合同研修会を実施し、子どもたちの実態と課題を確認



モデル校の報告

#### <情報交換会>

- コミュニティ協議会のもち方
- 取組の具体化へのプロセス



校種別に意見交換

#### ～情報交換会での意見、感想から～

- 学校を変えるには学校のみでは進まない。課題解決には地域の人の力が必要。
- 地域の方は学校に関わりたいたいと思っている。地域の人をどう巻き込むか。地域は「きっかけ」を待っている。
- 学校と地域が一体化した防災教育を推進したい。
- 情報発信について、他校の例を参考に広げていきたい。
- 学校における話し合いの場が、様々なボランティアが出会う機会になっている。
- これまで地域には世話になり通し。学校からも発信し、双方向化を目指していく。
- 外部に向けた情報発信(新聞、ローカルTV)は、地域に情報発信するだけでなく、子どものモチベーションを高めることにつながる。「社会から注目されている。もっとがんばろう。」という子どもの気持ちが生まれてきている。
- これまで地域との窓口は教頭だったが、組織化により、教職員全員で担うという意識に変わってきた。
- 学校コミュニティ協議会と同様、校内の熟議でも、最初から方向性を決めて行うのではなく、話し合いの過程で方向を決めるようにすると、活発な論議になった。
- 地域の協力を得るためにはプラスの発信が大切。「しんどいけれども、やろうよ。」と取り組み始めている。
- 教員をめざす地域の大学生に、逆上がりや跳び箱、陸上記録会の指導をお願いして、課題解決へのきっかけとしている。
- 学校規模に応じた校内組織の参考例や実践事例について、情報提供をお願いしたい。
- 放課後の学習支援の取組に関して、情報交換の機会を設けてほしい。
- 地域人材の発掘や確保について、どのように進めるかを今後決めていきたい。



ワークショップでの協議